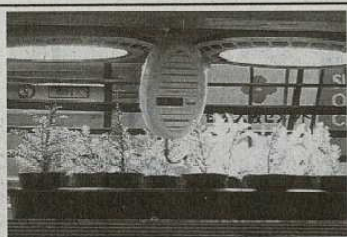


バイオマス発電

もっとグリーン



住友大阪セメントはバイオマス発電所で排出した二酸化炭素(CO₂)を育苗に活用する実証を始める。ハウス内のCO₂濃度を高めて苗木の成長を促す。苗木を育て、将来は発電用の木質チップに転換することを見込む。

住友大阪セメントが実証実験

CO₂で育苗、木質チップに

バイオマス発電所で排出されるCO₂を使う。排出されたCO₂を浄化後に圧縮し、ハウス内に送り込む。CO₂の回収・貯留(CCS)とバイオマス発電を組み合わせた「BECCS(ベックス)」にあたる。植物はCO₂濃度が高い環境で成長速度が上がるとされている。栽培するのは花粉の少ないスキの苗木にする。将来的にはバイオマス発電で使う木質チップなどへの利用を想定する。政府は約30年後にスキ花粉の発生量を半減させる目標を掲げており、需要増が見込まれている。苗木栽培の自動化技術で豊富な知見をもつオム

ニア・コンチェルト(東京・港)と手を組んだ。実証は2025年3月育苗ハウスにはセンサーなどが備え付けられており、温度やCO₂濃度を自動制御することができ、光の照射にはバイオリミットリングなどを用いる。住友大阪セメントは20年に栃木県と包括連携協定を結び、今回の取り組みもその一環に活用して環境負荷が雇用創出も目指す。

東芝、中古EV電池診断

「車選びドットコム」など

東芝は中古の電気自動車(EV)の電池を診断し、中古車情報サイトに劣化度合いなどの情報を掲載する実証事業を始めた。期間は2025年2月までの半年間。消費者に分かりやすい基準を示し、EV市場の拡大を後押しする。東芝のほか、中古車情報サイト「車選びドットコム」を運営するフアアリカコミュニケーションズ、事業の企画を担う丸紅プラックスの3社で実施する。

劣化度測定、サイト掲載

中古EVを巡っては電池の劣化度合いの評価が難しいという課題があった。今回の実証実験では充電ポートに専用機器を接続すると、1分程度で電池を診断する。世界的な脱炭素の流れでEVを購入する人が増えている。EVの重要な部品である電池の状態を手軽に診断できるようにすれば、中古市場の信頼性の向上にもつながるとみている。

充実

貴重な戦力、離職を防止

障害者が仕事にやりがいを感じたり、スキルアップしたりできる職場を目指す中小企業が増えている。抱える障害によって少しずつ対象は異なるものの、社員の個性を考え信頼関係を築くことが休職や退職を防ぐ一歩になる。専門家は「法定雇用率を満たすための数合わせではなく、戦力と考

電子部品製造のフカサ正会長は男性従業員が「経営者の役割だ」と強調する。その上で、5人の

1階の生産担当のリーダーを呼んで次の作業などを指示してもらう。事務職が2人の仕事の習熟度をみて、必要に応じて正しい作業方法を教えることもある。プラスチック袋を製造する船場化成(徳島市)は2019年から障害者の雇用を本格的に始めた。以前は国の法定雇用

アジア民間初 月面着陸へ

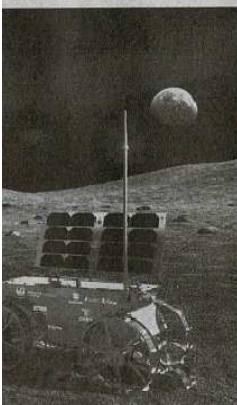
アイスペース、今冬に?

月面輸送サービスのispace(アイスペース)が2度目の月面着陸挑戦に向け、準備を進めている。米国から今冬、ロケットで宇宙へ打ち上げる予定の月面探査車と月着陸船をこのほど完成させた。2年前の冬の前回プロジェクトは着陸間近で失敗した。アジアの民間企業として初の快挙を目指し捲土(げんと)重来を期する。

アイスペースは8月、月面探査車を宇宙航空研究開発機構(JAXA)の筑波宇宙センターに運んだ。今回のプロジェクト向けに新たに製造した重量5.5トンの四輪車「テネシアス」だ。月着陸船に積み込み、今冬、アイスペースXのロケットで打ち上げる予定だ。

今回の「ミッション2」の目的の一つは月面探査車で月のレゴリス(砂)を採取し、撮影することだ。撮影した画像をもとにして、レゴリスの所有権を米航空宇宙局(NASA)に販売する。

月着陸船は4本の脚を広げた状態で高さが約2.3m、幅が約2.6mある。積載可能容量は最大30kgで、今回のプロジェクトでは月面探査車以外にも企業3社と1大学の荷物を月へと運ぶ。高砂熱学工業の水電解装置やユグレナの藻類栽培装置などだ。アイスペースは民間企業初の月



車が月に降り立 ice提供